

平成二十八年四月句会

特選

逆光の鐘楼に散る桜かな (西山氏)

風の向き俄かに変はる野焼きかな (西山氏)

せせらぎの名もなき橋や諸葛西 (春子氏)

本選

桜散る我が身を思ふ寂しさよ (紀生氏)

早春をそつと彩る猫柳 (好美氏)

人生の節目節目に咲く桜かな (日出夫氏)

少しだけ小鳥に残し春菜つみ (日出夫氏)

花筏途切れて揺らぐ水面かな (西山氏)

連山の屏風のごとき桜かな (西山氏)

膝ついて莖と話すカメラマン (西山氏)

連山の墨絵のごとく笑ひけり (西山氏)

余生とは嫌ひな言葉長閑なり (春子氏)

花見酒心も顔も咲きみだれ (昂雄氏)

夕東風や雀の番戯れる (昂雄氏)

春風にこころの透けるひと日かな (楽章氏)

ひなあられ小さき手からこぼれたり (行人氏)